

エスロハイパー NEWS

◆ エスロハイパー現場レポート 熊本地震における給水装置の被害状況

■ 熊本地震における給水装置の被害

2016年4月に発生した「平成28年 熊本地震」に関する給水装置被害状況調査報告書が公益財団法人 給水工事技術振興財団より公表されました。

■ 給水装置耐震化

東日本大震災での報告書同様、給水装置の耐震化が提言されています。当社の進める給水装置耐震化の提案に繋がる部分は以下の通りです。

【主要な給水装置に求められる性能】

- サドル分水栓を新たに使用する際には、耐久性の高い構造・材質を選択する事が重要。
- 地震対策としては、
 - ・ 地震動に追従出来る柔軟な管材の採用、
 - ・ 給水管接合部の可撓性の向上、
 - ・ 配水管とサドル付分水栓の接合部のずれ防止策、などの対策が必要。

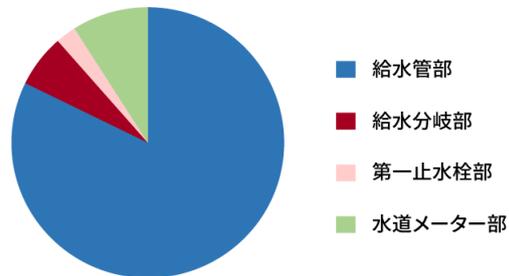


■ 被害の特徴

表1に示す通り、調査を行った被害件数2085件の内、給水管部の被害が1715件と突出していました。また、配水管被害率との比較を行った結果、配水管・給水装置の被害率は、共に阪神淡路大震災の被害率を下回り、耐震化が進んでいるものと推察されます。但し、配水管と給水装置の比率を見ると、差が大きくなり、給水装置の脆弱性も明らかとなりました。

表1. 部位別にみた被害状況

部位	被害数	割合※
給水管部	1,715	82.3%
給水分岐部	131	6.3%
第一止水栓部	51	2.4%
水道メーター部	188	9.0%
合計	2,085	100%



※ 被害の総件数（2085件）に対する割合（%）である

表2. 給水装置と配水管被害率の比較

事業者	配水管			給水装置			比率※ ¹
	被害数 件	布設延長 km	被害率 件/km	被害数 件	給水装置数 箇所	被害率 100箇所当りの件数	
熊本市	422	3,313	0.127	1,737	146,951	1.182	9.279
大津・菊陽水道企業団	60	386	0.156	64	17,915	0.357	2.296
合計	482	3,699	0.130	1,801	164,866	1.092	8.382
(参考：阪神・淡路大震災の被害状況)							
4市合計※ ²	4,068	6,027	0.675	17,695	530,994	3.332	4.937

※¹ 配水管被害率（件/km）に対する給水管被害率（件/100箇所）比率である

※² 神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市の合計である 出典：公益財団法人 給水工事技術振興財団 「熊本地震給水装置被害状況調査報告書」から一部加筆

積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー

東北支店
土木システム営業所 022(217)0607

中部支店
設備システム営業所 052(307)6806

九州支店
設備システム営業所 092(271)1314

東日本支店
東京設備システム営業所 03(5521)0641
関東土木システム営業所 048(646)0160
横浜営業所 045(311)9115
静岡営業所 054(275)0720
甲信営業所 0263(38)1220
東関東営業所 043(204)5070

西日本支店
近畿設備システム営業所 06(6365)4510
中国設備システム営業所 082(224)6219
北陸営業所 076(231)4245
京滋営業所 075(662)3418
四国営業所 087(821)2113

積水化学北海道(株)
直需・ストック営業部 011(737)6330
お客様相談室

【東京】03(5521)0505
【大阪】06(6365)4133

●お問い合わせは上記各営業所へ

エスロハイパー-JW

製品ページへの
アクセスはコチラ!

エスロンタイムズ on the Web

https://www.eslontimes.com